

マーラー 交響曲第2番「復活」 第5楽章 歌詞対訳

合唱第2段落までは、ほぼ、Friedrich Gottlieb Klopstock (1724-1803)の原詩のままであるが、その後は、完全にマーラーによる作詞となっている。

合唱第1段落

Aufersteh'n, ja, aufersteh'n wirst du, 復活する、そう、汝は復活するだろう！
復活する そう 復活する ~だろう お前は

mein Staub, nach kurzer Ruh'. 私の塵よ、短い憩いの後に。
私の 塵よ ~の後に 短い 憩い

Unsterblich Leben 死することのない命を
死さない 命を

wird, der dich rief, dir geben. 汝を呼んだ方が、汝に与えるだろう。
~だろう [関代]~が お前を 呼んだ お前に 与える
※ rief = rufen (呼ぶ)過去

※原詩では Unsterblich は Unsterblichs に、rief は schuf(創造する schaffen の過去形)になっている。

合唱第2段落

Wieder aufzublüh'n wirst du gesät! 再び花咲くために、汝は種蒔かれる。
再び 花咲くために [zu不定詞] [受動]~れる 汝は 種蒔く
※分離動詞 auf-blühen (開花する)

Der Herr der Ernte geht 収穫の主は行き
主は 収穫の [格] 行く

und sammelt Garben 束を集める
そして 集める 束を
※分離動詞 ein-sammeln (集める)

uns ein, die starben. 私たち死んだ者たちの束を。
私たちを 1つに [関代] 死んだ
※ starb = sterben (死ぬ)過去

※原詩では1行目は、werd ich gesät (私は種蒔かれる)となっている。

※原詩では以上2節の最後に Halleluja!がついた聖歌となっており、この後さらに3節続く。そのあらすじは以下の通り。

「おお、神の日よ。私は墓の中で眠っていたが、お前は私を目覚めさせる。

イエスと共に、われらは喜びの中へ入る。私は聖なる場所に住む。彼の御名に栄光あれ。」

以下のマーラーによる作詞部分とは、だいぶニュアンスが異なっている。

アルト solo:

O glaube, mein Herz, o glaube: おお、信じよ。我が心よ。おお、信じるのだ。
信じよ 私の 心よ 信じよ

Es geht dir nichts verloren! 汝には、何も失われる物はない。
(事が推移する) 汝に 何も~ない 失われる
※ verlor = verlieren (失う)完了分詞

Dein ist, ja dein, was du gesehnt, 汝の物だ。そう、汝の物だ。汝が憧れた物は。
汝のものである そう 汝のもの ~のものは 汝が 憧れた
※ gesehnt = sehnen (憧れる)完了分詞

Dein, was du geliebt, was du gestritten! 汝の物だ。汝が愛した物は。汝が争った物は。
汝のもの ~のものは 汝が 愛した ~のものは 汝が 争った
※ gestritten = streiten (争う)完了分詞

※ was 節は全て現在完了形省略

ソプラノ solo:

O glaube:
信じよ

おお、信じよ。

Du wardst nicht umsonst geboren!
汝は [受動] ~ない 無駄に 生まれた

汝は甲斐なく生まれたのではない
※ wardst = wurdest (werden の 2 単過去) の雅語

Hast nicht umsonst gelebt, gelitten!
[現在完了] ~ない 無駄に 生きた 苦しんだ

甲斐なく生き 苦しんだのではない
※ gelitten = leiden (苦しむ) 完了分詞

合唱第 3 段落

Was entstanden ist, das muss vergehen.
~者は 生まれた [現在完了] [指代] ~ねばならない 朽ちる

生まれてきた者は、必ず朽ちなければならない。

Was vergangen, auferstehen!
~者は 朽ちた [現在完了] ※ 復活する

朽ちた者は、必ず復活するに違いない！
※前行同様 ist, das musst が省略されている

Hör' auf zu beben!
止めよ [2 単命令] [zu 不定詞] 震える

汝、震えおののくのをやめよ！
※分離動詞 auf_hören(やめる)

Bereite dich zu leben!
準備せよ 汝 [zu 不定詞] 生きる

汝、生きる準備をせよ！
※ bereiten (調える) → sich bereiten (～の準備をする)

ソプラノ & アルト soli

O Schmerz! du Alldurchdringer!
苦痛よ 汝 全てに浸み渡るもの

おお、苦痛よ、汝、全てのものに浸み渡るもの！
※分離動詞 durch_dringen (浸みる、行き渡る)

Dir bin ich entrungen!
汝から [現在完了] 私は もぎ取る・引き剥がす ※ mich が省略

私は汝から身を引き剥がした！
※ j-m etw entringen (誰かから～をもぎ取る)

O Tod! du Allbezwinger!
死よ 汝 全てを征服するもの

おお、死よ、汝、全てを征服するもの！
※ bezwingen (征服する)

Nun bist du bezwungen!
今や 汝は 征服された

今や汝は征服された！
※ bezwungen (征服された、完了分詞の形容詞化)

Mit Flügeln, die ich mir errungen,
~で 翼 [関代 4 格] 私が 私に 獲得した [現在完了]

私が勝ち取った翼で
※ erringen (完了分詞)

in heißem Liebesstreben
~の中で 熱い [3 格] 愛の 希求

熱い愛の希求の中で
※ Streben (努力、希求) in 3 格なので方向性は含まない

werd' ich entschweben
~だろう 私は 飛翔する

私は飛翔するだろう、
※ entschweben (浮かび漂う、飛ぶ)
※これ以下の werden は未来の助動詞

Zum Licht,
~へ 光

光へと、

zu dem kein Aug' gedrungen!
~へ [関代 3 格] ~ない 眼が 迫った [現在完了]

かつていかなる眼も迫ったことのない光へと！
※ dringen (強く迫る)

合唱第4段落

Mit Flügeln, die ich mir errungen,
～で 翼 [開代4格] 私が 私に 獲得した[現在完了]

私が勝ち取った翼で

werde ich entschweben.
～だろう 私は 飛翔する

私は飛翔するだろう。

Sterben werd' ich, um zu leben!
死ぬ ～だろう 私は ～するため 生きる

私は生きるために死ぬだろう！

Aufersteh'n, ja aufersteh'n wirst du,
復活する そう 復活する ～だろう 汝は

復活するだろう！ そう、汝は復活するだろう！

mein Herz, in einem Nu.
私の 心 ～の中で 一瞬

私の心よ、一瞬のうちに
※ Nu(刹那、一瞬)

Was du geschlagen,
～のもの 汝が 打ち倒した

汝が打ち倒したもの(=「死」※)
※ schlagen(打つ、打ち倒す)

Zu Gott wird es dich tragen!
～へ 神 ～だろう それが 汝を 運ぶ

それが、汝を神のもとへ運ぶだろう！
※ es = was du geschlagen

※Was du geschlagenとは何か？ 2020年改訂

この節の直訳は「汝が打ったもの」である。受動態ではなく能動態の現在完了形で **hast** が省略されている。では「汝を神のもとへ運んでくれる」ところの「汝が打ったもの」とは何か。

「お前の鼓動が」と訳されていることがあるが、それは脈絡を無視した訳だろう。Plus(鼓動)が **schlagen**(打つ)の主語になるのであって、「人が鼓動を打つ」とはならないはずだ。しかしこの「鼓動説」は結構行き渡っていて、バルティニー指揮全集盤(EMI)のブックレットの英訳が **pulsation** となっているほどだ。

また直前行の **mein Herz** のことだ、と解釈して「汝が打ち鳴せし我が心が」と訳しているページも見つけたが、これも違うだろう。**du = mein Herz** であり、それが復活するという文脈だ。

誤訳では私も他人のことは言えない。私も、以前の HTML ページでは、前段の「生きるために死ぬ」という行を受けて、ドイツ語の文法無視で「汝が打ち倒されることが」などと受動態で訳していた。無茶苦茶である。

また、この PDF でも 2018 年に公開した時は、クローブシュトックの原詩を読んで思いついた突拍子も無い仮説を載せていた。すなわち、これは「イエス」だ、イエスを打った(**schlagen**)のはユダヤ人だが、しかし全キリスト教徒がそのことを自分の心の重荷と考えているはずだから、などと書いていたのだ。これも以下を読めばわかる通り、文法的に成り立たない。

2020年4月、私のこの PDF を Web でご覧になった金原秀樹さんという方からメールを頂いた。

金原さんは、「ここは受動態ではなく現在完了形と解釈すべき、鼓動という訳もおかしい」という私に同意されたが、私のイエス説も「関係代名詞が人を表す **wer** ではなく **was** なので、それはない」と書かれていた。全くその通りである。

その上で、ベンジャミン・ザンダー指揮フィルハーモニア管弦楽団の録音(Linn レーベル)につけられた英訳が Web 上に公開されており、それによれば「**Was du geschlagen = 汝が打ち倒したもの**」とは、前の段落にある「死」であると解釈される、とご教示いただいた。その英訳は以下の URL で読める。

<https://www.chandos.net/chanimages/Booklets/LN0452.pdf>

ドイツ語の詩では、「おお、死よ、汝、全てを征服するもの！ 今や汝は征服された！」の箇所では **bezwingen**(の完了分詞 **bezwungen**)、今問題としている箇所では **schlagen**(の完了分詞 **geschlagen**)、と別の動詞が用いられている。しかしこの英訳ではどちらも **conquer** という同じ動詞が用いられており、訳者の解釈が明確にされている、という。(独和大辞典には **schlagen** の訳として「打つ」の他に「打ち倒す」も明記されている。)

この解釈ならば、まず前段で「死は征服された(=我々が征服した)」、そして当段落に入って「私は生きるために死ぬ」と宣言し、そして「汝が打ち倒したもの=死が、汝を神のもとへと運ぶだろう」というように、文脈の一貫性がハッキリする。

目から鱗とはまさにこのことで、この解釈を知ると、今までの様々な訳は何だったのか、なぜ皆このことに気付かなかったのか、とってしまうほどである。

以上、これにて一件落着！である。金原さん、どうもありがとうございました。